

道 -ROAD-

大阪学芸中等教育学校
校長室だより

「思いやり算」

先週の月曜日（10/30）に近畿地方で「木枯らし 1 号」の発表がありました。そして、11 月に入り肌寒い日が続いています。昨日 11 月 7 日は二十四節気の「立冬」で、暦の上では冬が訪れました。ちょうど秋分と冬至の中間にあたり、これからまだまだ日が短くなってきます。朝夕は冷え込んでいますが、日中は秋晴れの爽やかな日が続いています。この時期の春のような陽気を「小春日和」（こはるびより）と呼んでいます。各地から紅葉の便りも聞かれ、秋の深まりが日一日と進んでいるようです。

さて、皆さんはどんな時に笑顔になるでしょうか。おいしいものを食べた時ですか、テストで良い点がとれた時ですか、友だちと楽しい話をしている時ですか。先日ある店先で、人を笑顔にする「思いやり算」というプリントを目にしました。これは、数年前に AC ジャパンの CM で流れていたものです。テレビで見た記憶のある人もいるでしょう。AC ジャパンは、住みよい市民社会の実現をめざす民間団体で、今年 3 月 1 日の卒業式式辞で紹介した東日本大震災後に流れていた CM も作成しました。（校長室だより「道」第 11 号に掲載しています）

「思いやり算」は次のような内容です。

- た す（+）… “たすけあう” ことによって、大きな力が発揮されます。
- ひ く（-）… “ひきうける” ことによって、互いに喜びがわきます。
- かける（×）… “声をかける” ことによって、心がひとつになります。
- わ る（÷）… “いたわる” ことによって、心が和みます。

文字通り「+」は助け合うことです。一人一人の力は小さいものであっても、仲間が力を合わせ互いに助け合うことで、より大きな力を発揮することができます。

「-」は困っている人のちょっとした事を引き受けてあげる事です。誰でもしんどい事や面倒な事は引き受けたくないものです。しかし、進んで引き受けることで、互いに喜び合える関係がつかれるのです。

「×」は声をかけることです。どんな時にも声をかけ合うことは大切です。挨拶を含め、優しい言葉や励ましの言葉をかけることによって、互いの心がひとつになれます。

「÷」はいたわることです。漢字は「労る」と書き、いくつかの意味がありますが、その中に「困っている人などに思いやりの気持ちで接する」があります。常にいたわりの心で人に接すれば、相手の心が和み笑顔が返ってくるでしょう。

この CM は最後に「それは人を笑顔にする算数。『思いやり算』。ほら、やさしいでしょ。」と結んでいます。小さな優しさが人に笑顔をあたえます。心配りや心配りが人の気持ちを通じさせます。そして、人に対する思いやりの心は、私たちが生きている限り学ぶべきもので、そして行動に移すべきことだと思います。

四則計算では、かけ算とわり算が優先ですが、「思いやり算」にはそれがありません。また、どのような計算をしてもプラスになることばかりです。できるところから行動に移してみてください。